

広島県山県郡芸北町

才乙方言における比喩語

岩城裕之

はじめに

- 1 調査対象地：広島県山県郡（やまがたぐん）芸北町は広島県の北西部に位置し、町の西は島根県金城町に、町の北は島根県旭町に接する県境の町である。産業は農業（稲作）、畜産を主とするが、冬季は町内に多くあるスキー場で働いたり、民宿経営をする者も多い。
才乙（さいおと / 地元の人はサヨートと言う）は芸北町の中でも北端に位置する、谷のもっとも奥の集落である。ここもやはり農業を中心とするが、多くは兼業農家であり、またスキー場が地区内にあるため、冬季はスキー場で働く者、民宿経営をする者も多い。
- 2 調査年月日：1993年1月11日 午前10時30分から12時まで
- 3 方言話者：四郎田サワミ（シロタサワミ） 明治39年生まれ 調査時86歳
- 4 調査者・調査場所：岩城裕之 四郎田氏宅居間
- 5 調査方法・調査時の様子：配布された調査票に基づく面接調査。雑談を交えつつ、終始くつろいだ雰囲気調査できた。
- 6 表記：なお、以下の★印で挙げた語形は、調査票にはない項目で、談話中に得られた比喩語・参考事象である。また、N. R. は、No Responseで、無回答のことである。
品詞の情報は、句、あるいはそれ以上の単位のものについては特に触れていない。基本的に、一語とみなしたもののみ品詞の情報を載せた。

I 【自然現象】

- 1 日照り雨 オテンキアメ（お天気雨）＜名詞＞
ヒヨリアメ（日和雨）＜名詞＞
★ 降ったり止んだり、ころころと変わる天気 キツネビヨリ＜名詞＞
○ キツネビヨリガ スル アー。（きつね日和がするなあ。）
きつねに化かされたようにころころと変わる、ということであろう。
- 2 入道雲 ニュードーゾモ＜名詞＞
- 3 旋風 特に名称はない。
- 4 霜柱 シモバシラ＜名詞＞ ○シモバシラガ キター。（霜柱がきた。）
- 5 つらら ナンジョー（なんじょう）＜名詞＞
「ナンジョー」は、「ナンリョー」の音訛であるか。このように考えた場合、「ナンリョー」は南鐮のことか。南鐮は、辞書によれば、精製された美しい銀のことになる。
★ 粉雪 ハーイギ（灰雪）＜名詞＞ 灰の様に細かい雪。
○ハーイギ。ハイノヨーニ チサイ。（灰雪。灰のように小さい。）
★ 綿雪 ワタユキ＜名詞＞ 大きくふわふわとした雪。
★ 樹氷 コーリアハチ（氷の花）＜名詞＞ 木の枝に雪などがついて凍ったもの。

- 6 北斗七星 ホク下ヒチセー<名詞>
 7 昴 特に名称はない。
 ★ 共通語で何という星かは不明だが、2つ並んだ「オヤコボシ」(親子星)<名詞>
 というのがある。
 8 流れ星 ナガレボシ<名詞>

II 《動物》

- 9 かわはぎ 知らない。当地は中国山地のほぼ中央部に位置しているため海から遠く、昔は海の魚を口にするには稀であった。
 10 ひらめ ヒラメ<名詞>
 11 ひきがえる 下ンビキ<名詞>
 「ビキ」は、ひきがえるの「ひき」であろうが、「下ン」は大きいことの擬態か。由来ははっきりしない。
 12 青大将 ヤブチナワ(屋朽ち縄)<名詞>
 蛇を朽ちた縄に例えた。家にいるから屋朽ち縄。
 13 とかけ ト万テ<名詞>
 14 かまきり カマキリ<名詞>
 「チョーナカタギ」は、聞いたことはあるが使わない。
 15 みずすまし ミズスマシ<名詞>
 16 きつつき ケラト(けらとう)<名詞>
 由来は不明。しかし土地の人は、きつつきが木をつつく時の、カチカチいう音が由来であろうと説明する。
 17 せきれい N. R.
 18 ふくろう フクク<名詞>

III 《植物》

- 19 馬鈴薯 ナツイモ(夏芋)<名詞> 夏に取れるから夏芋という。
 20 どうもろこし マンマンコ(まんまんこ)<名詞> 由来は不明。
 下ーキビ(唐黍)<名詞> 伝来した場所名による命名であろう。
 21 いんげん豆 ササギ(ささぎ)<名詞> 古 稀。
 下がってなる豆の総称でもあった。
 ○ムカシヤー ナニモカモ コー サヲツタノワ ミチ ササギ ササギ ユーテ
 ミチ ササギデ 下ーリヨツタ フ。(昔は何もかも下がってなる豆は全部ささぎ、ささぎと言って、全部ささぎで通用していたよ。)
 22 そら豆 ソラマメ<名詞>
 ★ 酒のつまみなどにする、炒ったそら豆 イカリマメ(いかり豆)<名詞>
 炒る時、豆がはじけることを考えると、怒り豆か。
 ★ オタフタマメ(お多福豆)<名詞>というのものもある。共通語で何という豆かは不明だが、下ぶくれで、お多福に形が似ている。
 23 きくらげ キクラゲ<名詞>
 24 げんのしょうこ ゲンノショウコ<名詞>
 25 どくだみ ジューヤク(じゅう薬)<名詞> 重薬か、十薬か。由来は不明。

広島県安芸郡蒲刈町では「下一ニ キヲ」(十の病気に効く)という説明があったが、ここでは、由来はわからないとの返事であった。

しかし、「ヤク」の部分については、薬であるとの教示があった。

○クスリニ ヲルケー プー。(薬になるからなあ。)

- 26 いたどり タンボコ (たんぼこ) <名詞>古 稀
いたどりは中が空洞になっているため、折るとポコンと音がする。この音による命名。
- 27 からすうり カラスウリ <名詞>
- 28 すみれ スモートリグサ (相撲取り草) <名詞>
すみれの花を使って相撲遊びをしたことによる命名。
クビギリソ (首切り草) <名詞>
相撲遊びの時、花を切って落とすことからの命名。
- 29 春蘭 N. R.
- 30 母子草 ハハコグサ (母子草) <名詞>
- ★ はこべ ヒメグサ (姫草) <名詞> 由来は不明だが、小さいから「ヒメ」か。
- 31 ねむの木 ネム <名詞>

IV 《性向》

- 32 熱しやすく冷めやすい人 アキッポイ (あきっぽい) <形容詞>
熱しやすく冷めやすい様子を言う。
- 33 あわてん坊 ケツケソスル ヒト ({あわてて} ごそごそする人)
「ケツケソ」は象徴詞。あわてる様子を示す。
- 34 動作の鈍い人 トロンポー (とろん坊) <名詞>
「トロ」は「トロイ」からきた。のろいこと。
- 35 嘘つき センミツ (千三つ) <名詞>
千に三つくらいしか本当のことがないということ。
- 36 ほらふき ホラフキ <名詞>
オープロシキ アケル (大風呂敷開ける)
中身は大したことはないのに包みが大きい、ということか。
実際の中身よりも話のほう大きい。
- 37 おしゃべり ベンシ (弁士) <名詞>
オーモフイ (大物言い) <名詞>
- 38 冗談言い ターコトユ (たわごと言う) <動詞>古 稀。
オドケー ユー (おどけを言う)
- 39 口先だけの人 オベンオ ユー (おべんを言う)
- 40 とんちんかんなことを言う人 トンチンカン (とんちんかん) <名詞>
- 41 のらりくらりと煮えきらない人 ナマクジヤトコ (蛞蝓男) <名詞>
蛞蝓のようにずるずるして、はっきりしないとの比喩であろう。
- 42 怒りっぽい人 タンキンポー (短気坊) <名詞>
先の「トロンポー」と同じく、「ポー」は接尾辞。
- 43 気むらな人 オデンキヤ (お天気屋) <名詞>
ころころと気が変わりやすいことを、晴れたり曇ったり、ま

た雨が降ったりと、定まる事のない天気^に例えた。

- 44 泣き虫 ナギムシ (泣き虫) <名詞>
- 45 おてんば娘 オトコマサリ (男勝り) <名詞>
- 46 腕白坊主 ガンドーボース (がندوق坊主) <名詞>
ガンドームスコ (がندوق息子) <名詞>
- 47 出しゃばり サキザラーヒタ (さきざらを引く) <動詞> 由来は不明。
- 48 どこへでも顔をだす人 コシガ カルー (腰が軽い)
★ 秘密をすぐに他人に話す人 クチガ カルー (口が軽い)
- 49 家にもって外出しない人 ヒッコミジアン (引っ込み思案) <名詞>
★ 家にもって外出しない人のことは、「ヒッコミジアン」というが、そういう人が外出していることを「ミツオケガ デタ」(味噌桶が出た)という。
- 50 小心者 ショーシンモブ (小心者) <名詞>
- 51 内弁慶 イエベンケー (家弁慶) <名詞>
- 52 人づきあいをしない人 N. R.
- 53 妻に対して頭の上がらない人
シリニ シカレトル (尻に敷かれている)
カカーデンカ (かかあ天下) <名詞>
「天下」と大げさに表現しているところが面白い。
- 54 けち ミギリ (握り) <名詞> 握ったら離さない、という発想であろう。
- 55 欲張り ヨクバリ <名詞>

V 【食生活】

- 56 大食漢 オーグイ (大食い) <名詞>
○オーグイジャ。ウシマガイジャ。(大食いだ。牛のようだ。)
ただし、「オーグイ」の人を指して「ウシマガイ」と言う事はない。
- 57 ぼたもち ナベランバリ (鍋ふんばり) <名詞> 古 稀。
鍋の中だけでつくり、臼や杵を使わないから。
トチリジラス (隣知らず) <名詞> 古 稀。
他の餅と違って、作るとき、臼や杵を使わないので音がしない
ため、隣にはわからないということから。
オハギ (おはぎ) <名詞>
ボタモチ (ぼたもち) <名詞>
- 58 砂糖味が薄い サトーヤノ マエオ ハシツタヨーナ
(砂糖屋の前を走ったような)
サトーヤガ 下イガッタ (砂糖屋が遠かった)
サトーガ キテ下ラン (砂糖が効いていない)
- 59 塩味が薄い ミズクサイ (水臭い) <形容詞>
塩が効いていないことを「ミズクサイ」と表現するのも、先の
「カカーデンカ」の「テンカ」に見られるようなオーバーな表
現である。方言社会に見られるオーバーな表現であるが、オー
バーに表現することによる比喩である。
シオケガ タラン (塩気が足りない)

- 60 大酒飲み オーザケノミ (大酒飲み) <名詞>
サカダル (酒樽) <名詞> 稀
- 61 酒を飲んでくださるをまく マダマク (ぐだまく) <動詞>
マダマク (ぐだまく) <動詞>
- 62 酒に酔って顔が赤くなる カジミマイ イッタヨーナ カオ
(火事見舞いにいったような顔)
ギントキミタイナ カオ (金時)
金時は金太郎のこと。金太郎は血色よく、太っていたというが、その血色の良さが顔の赤くなる様にながってくるのであろう。

VI 《動作・様態》

- 63 恥ずかしくて顔が赤くなる カオカ ホテル (顔が火照る)
- 64 土砂降りの雨 ドツヌゲガ スル (土揚げがする)
「ドツ」は土のことであるという。地面が抜けてしまいそうなほどの雨、ということ。これもまた、オーバーな表現である。
- 65 ずぶ濡れになる様 ドブネズミノ ヨーナ (どぶ鼠のような)
ずぶ濡れになった様子をいう。
- 66 服装がだらしないさま ダラズダナ (だらず気な) <形容動詞>
- 67 髪が伸び放題なさま ブジョーヒゲ (不精髭) <名詞>
伸び放題になった髭をいう。
- 68 厚化粧をしている人 シラカベ (白壁) <名詞>
厚化粧をして顔が白くなった様子を白壁に例えた。
カベヌツタヨーナ (壁を塗ったような)
- 69 背丈の高い人 アッポ (のっぼ) <名詞>
セータカ (背高) <名詞>
- 70 出びたい ヒョットコメンノ ヨーナ
(ひょっとこ面のよう)
- ★ 女の入で、前髪の生え際が三角になっていること
デジマ (でじま) <名詞> 由来は不明。出島か。
- ★ 毛髪のない頭 ギンカ (きんか) <名詞>
土地の人は金貨であろうと説明する。丸くて光る、という発想であろう。県境を越えて島根県邑智郡桜江町でも聞かれた。
- 71 汗がひたいから流れる アセガ シタタル (汗がしたたる)
ダラダラデル (だらだら出る) 「ダラダラ」は象徴詞。
- 72 目を丸くする テッポ ハチータヨーナ カオ
(鉄砲放ったような顔)
広島県安芸郡蒲刈町では「バカガ テッポ ハチータヨーナ カオ」と言い、「バカガ」ということばがついていたが、当地ではつかない。
- 73 口を尖らす ツノグチ (角口) <名詞> 角のように突き出している。
- ★ 頭が良すぎるなどで、自分が意見を言っても容れてくれないような人
ニテモ ヤーテモ クワレンヨーナ ヒト

(煮ても焼いても食べられないような人)

- 74 焦げ臭い臭い クギクザー (くぎ臭い) <形容詞>
75 遠回り 下^一ワマリ <名詞>
76 末っ子 スエッコ <名詞>
77 一生懸命頑張る ハーダイシバツテ ヤル (歯を食いしばってやる)

まとめ

●魚に関する語は、当地が山の中の集落であるせいもあって、あまり多くはないようであった。また、地域性ということ言えば、冬季は雪の多い地方であり、雪に関する名称は少ないようである。その中で、比喩を使ったものは「ハーイギ」と「ワタユキ」であった。

●動作・様態の分野、食生活の分野では、「ヨーナ」を伴う直喩的表現がさかんである。状況表現において直喩的表現が多い事は、状況表現が常に微妙な表現を求めている事を物語るのであろうか。モノを指し示す場合との違いが、そこには存在する。

●動植物などは、モノ自体が存在しない場合があった。また、自然現象で、星にはあまり関心がないようであった。一方で雪に関しての語は緻密な体系を有しているような感触である。比喩を使った事象も存在した。

●比喩の題材は、一般的に身の回りに存在する、身近な題材である。

(いわき ひろゆき 広島大学教育学部4年在学)